

佐倉支部乗務員分科会結成! (5/19)

日刊 動労千葉

81.5.21
No. 745

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八(動力車会館)
(鉄電)二九三五(六)会報(編者)七二七〇七



スト破り集団=土屋粹一派を圧倒する
文字通りの乗務員主流派の分科として出発

結成総会は、機関区講習室に乗務中以外のほとんどの乗務員三〇名が参加する中で、十三時すぎ福田芳郎氏の司会により開始された。座長に平川和彦氏を選出したのち、結成準備委員会を代表して富沢輝男氏があいさつを行った。富沢氏は、動労千葉分離独立以降、佐倉支部結成、五五・一〇反合、三月ジェット決戦闘争貫徹、八一春闘とち続く闘いの先頭を常に担い切ってきた乗務員の自信と確信にもえて、とりわけ「本部」反動分子・土屋粹ら一部裏切り分子とのしのぎを削る組織攻防戦を勝ちぬいてきた感慨もひとしおに、全参加者に結集のお礼を述べ、「今総会の成功と佐倉支部の中心柱としての分科の重責を果し益々の発展を祈念したい。慣れない中ではあるが役員のもとに皆で協力して前進しよう」と力強くあいさつ。来賓として出席した堀口支部長は、「結成が大変難産だっただけに、それだけ非常にうれしい。今日



富沢分科会長

一九八一年度夏季手当の支払いについて

動労千葉は五月十九日、本年度の夏季手当の支払いについて国鉄当局に対し、次のような内容の申第五号をもって申し入れを行った。

- 一 職員及び準職員については、支払日現在の基準内賃金の二・五ヶ月分を支払うこと。
- 二 支払いは、現在減給、停職、休職の者について、減額されない額により支払うこと。
- 三 臨時雇用員については支払日現在の賃金額六五日分を支払うこと。
- 四 上記支払日は、一九八一年六月十五日とすること。

ジェットの闘争の拠点、佐倉に、また一つ力強い前進の旗がうち立てられた。五月十九日、佐倉支部に結成する三八名の機関士仲間が、動労千葉佐倉支部乗務員分科会の結成を圧倒的成功のうちにかちとったのである。スト破り集団土屋粹一派を名実共に圧倒する主流派としての地平をしっかりと立ち立てたこの日の結成総会は、動労千葉とりわけ佐倉支部一二六名組合員の正義と勝利を象徴する着実な前進を示している。

の合理化攻撃との闘いについて出るためにも、支部組織の団結と強化が一番大切。これからも支部の中心としてりっぱな分科会にされていくようがんばってほしい」と激励した。続いて西森千葉会長が「今日の情勢は、今までタブーとされてきた『核』の持ち込みを公然と認めさせ、ついに『非核三原則』すら投げ捨てさせるといふ所まで戦争準備が進んでいる。佐倉・成田の仲間を先頭にわれわれが闘った三月決戦闘争は、このような軍事大国化・改憲の攻撃と対決し、同時に日本の労働運動を今こそつくりかえていこうという目的の闘いであった。八一春闘の敗北をのりこえて、三万人体制合理化との闘い等、これまで以上に、支部の中心軸として闘ってほしい」とあいさつした。

スローガン採択、分科役員選出ののち、「分科会規約」「一九八一年度運動方針」「同予算」について各々高崎氏、根本氏より提案がなされ、討論ののち満場一致で採択された。

分科会長に選出された富沢氏を先頭に六名の新役員が壇上に紹介され全員の拍手がこれを包んだ。最後に富沢分科会長の音頭で団結ガンパローを三唱し、十四時四〇分、成功裡に結成総会を終了した。

佐倉支部乗務員分科会・役員
会長——富沢輝男(五一才)
副会長——高崎征四郎(三七才)
事務長——根本昭吾(五一才)
会計——福田芳郎(五一才)
会計監査——篠田紀郎(五五才)
——高橋貞夫(五〇才)